

# 分科会「ろう者と戦争」

助言者／伊藤政雄 司会／千々岩恵子

日本が戦争をしなくなってから50年間過ぎている。昔の戦争の記録などを読んでも今の生活をみてピンと来ない人が多いのではないだろうか。当時、世界最強だった戦艦ヤマトの存在も幻ではないかと思う人もいるかもしれない。

私は戦争を経験している。昭和20年8月15日は日本が敗戦した日で、私にとっては忘れる事が出来ない日だ。日本が戦争を始めたのは昭和16年12月8日で、日本が戦争したのは約4年間です。明治37、38年に日露戦争や日清戦争もあり、大正3年に世界第一次大戦があった。日本はどの戦争も勝ち続けた。

昭和6年9月、「満州事変」が起きた。「戦争」と「事変」とはどう違うのか。どちらも武器をとって戦う行為ではあるが、国際法によって分別されている。「戦争」とは国の最高責任者（日本の場合は天皇）が文書による宣戦布告を出し、敵がそれを受け取った場合、戦いが始まる。宣戦布告なしに戦争が始まった場合は、国際法違反とみなしている。「事変」とは、境界線などで敵が突然奇襲され、自衛の為に交戦するもので、それ以上の戦闘行為をしないものである。宣戦布告によって行なった「戦争」は戦いに勝利して敵に慰謝料や土地などを請求する権利はあるが、「事変」では出来ない。

それぞれの言葉に意味がある。ろう者は専門的な言葉の本当の意味をつかめていないし、教育されていない人が多いと思う。そのため手話も混合されている。例えば「戦争」と「紛争」、「事変」「事件」の区別はどうされるのか。アルバニアやパレスチナで起こった戦闘行為は「紛争」である。戦闘行為は「戦争」と同じだが、「戦争」ではない。何が違うのか、それは「国際法」である。

先日の9月11日ニューヨーク同時多発テロは今までの「戦争」とは大きく異なった。貿易センターのツインビルに衝突した行為の宣戦布告は今までなかった。新しい戦争の始まりだった。炭素菌による恐怖も起こっている。今後は細菌や発電所へのテロの危機が全くないわけではない。今後の「戦争」のあり方は想像できないものになっている。

## 宮下（松本出身）からの戦争経験

私が幼い頃、近所の母達が「先人針」を一生懸命に作り、ちょうど今の会場から松本駅までの長い道に大勢の婦人達が並び、国旗を振っていた。200人位の兵隊が規則正しく行進していた。私はものめずらしく、そして兵隊のきびきびした態度に惚れ惚れした。私にとっての「戦争」の記憶はこんな感じだ。

## 金井さん（長野出身）からの戦争経験

私も兵隊さんを送るために祝ったことがあった。近所の婦人達が朝からおもちを作ったり、大きな日本丸が描いた布に名前とかいろいろなことを書いたりしていた。出兵を命じられたその家族は涙を流し、激励していた。私は田舎だったので、最寄りの小さな駅へ皆で見送っていた。また、誰かが戦死した時は写真と遺骨を持って汽車で駅に来たのを見た

ことがあった。

私は戦前、松本ろう学校の寄宿舎に入っていた。食糧がすごく不足し、わずかなお米と変な草が入っている味噌汁を食べていた。お米の代用に芋や大豆などで飢えをしのいだ。ろう学校の運動場も畑に変えられ、小麦や芋を耕した。私も栄養不足で病気になり、夏休みの帰省に親が迎えに来てもらうほどに弱った事もあった。

昭和20年8月15日に母が泣いているのを見た。理由を尋ねたが、「後で」と、そして戦争が終わった事を知らされた。私はまだ幼かったので、その時は何の感情もなかった。敗戦後、私の田舎で米軍のP51の飛行機が空にぐるぐると回って遊んでいたのを見かけた。これが私の戦争経験です。

### 山崎さん（長崎出身）からの戦争経験

私は今東京に住んでいますが、生まれは長崎です。原爆で有名なところですが、私は爆心地から一つ山を越えた有明湾で生まれ育った。当時の有明湾は土がどろどろしていて、貝や魚、むつごろうもたくさんいた。むつごろうは本当に美味しかったよ。素手で捕まえるのはかなり難しく、釣りで釣った。有明湾の山の土は赤土でした。赤土は丈夫で雨が降っても土が崩れないです。その山に15メートルくらい奥深さの穴を持っている。自分の家族用として昔から掘ってあったものです。隣の家も他の家もみんな、自分の家族用に掘ってあるのです。

戦時中、私は2、3歳頃の時でした。原爆が落ちた時は3歳の時でした。原爆が落ちたしばらく後に私の地域に黒い灰が降ってきた。瞬く間に灰が積もってきたので、私たちはその穴へ避難した。私はまだ幼かったし、親が聴者だったので、話しが良く分からなかったこともあってこれしか覚えていません。

B29も見たことがあります。終戦前に大勢のB29が飛んできて驚いたりしたが、当時は戦争の恐怖さなどは実感しなかった。田舎だったので、毎日農業に暮れる、平和な日々だったのです。初めて戦争の実態を知ったのは小学部に入った後です。クラスの子供たちから原爆の体験などを聞かされて衝撃を受けた。ろう者であるために捨てられた兄弟がいて、長崎市で被爆から運良く生き残ったが、周りの人たちがケロイドになって歩いている人などを見たという話しを聞いた。そして自分が大きくなって平和資料館で映像や写真などを見て友人がこういうものを見てきたのかとゾッとしました。

他に忘れられない話しがある。長崎市に住んでいる友人は、被爆日、たまたま用事で出かけて無事だったが、家はなくなった。友人は鶏を飼っていて、その死体を見たら原爆の風発でペしゃんこになっていた。

又、終戦前に米軍のグラマー機と日本軍の零戦が交戦となっていて、結局グラマー機に墜落され落ちていったのを見た記憶もある。他にもいろいろあったが、鮮明に記憶しているのはこれ位でしょうか。

### 千々岩からの報告

NHKの長崎ろう被爆者の状況をビデオで見たことがある。被爆後、何年か後に被爆手

帳をもらえるのだが、ろう者は当時手話通訳者がいなかったこともあって情報がなかった。ろう者たちは長い間、被爆による発病などの通院に自払いで生活が苦しんでいた。手話通訳の制度ができた後に、ろう被爆者のほとんどが被爆手帳を持っていなかったことを通訳者によって知り、手帳の申請の運動を始めた。しかし、被爆から20年数年間もたっていたので自分が被爆されている事を証人してくれる人がなかなか見つからず申請するのにかなり時間がかかったそうだ。(被爆手帳の発行は昭和32年だったが、たいていのろう者が交付できたのは、昭和40～50年の間だった)

ほとんどのろう者たちは辛うじて被爆手帳を交付する事ができたが、最後までに拒否したろう夫婦がいた。その主人は戦時中、三菱重工業の下請け会社に初めて働いたろう者であり、他のろう者をたくさん紹介して働いていた。8月9日、たまたま主人は仕事を休んだお陰で無事に生き残れたが、紹介したろう者は全員被爆で亡くなった。その衝撃を受けた主人は自分だけが幸せに暮らすことは出来ない、と被爆手帳の支給を拒否した。

#### 伊藤政雄の話

戦時中、ろう者ほど不便な人はいなかったと思う。盲人とかも、それなりの不便さはあっただろうが、色々な情報が入ってくるし、助けを呼べる。戦時中のろう者は何にも情報がなかったといってもいい。全ては戦後に少しずつ知らされていく。自分もこういう経験がある。

#### 山崎さんからの話

当時、長崎が狙われた理由は、軍事工場が多くあり、三菱重工業など有名な会社もあった。又、アジアで一番立派なカトリック教会があり、ろう学校も日本で一番立派だった。それらはみな全滅した。残念だった。ろう学校がなくなったので、わたしたちは小倉へ仮の校舎へ行かされた。そこには盲の生徒も一緒にいつも喧嘩が絶えなかった。又、戦前、戦争の事を口出したら、スパイとして連行されるというような事を教えられた事実もあり、多くのろう年配は戦争が終わっても怖がって戦争や原爆の事を口出せなかった。

#### 伊藤政雄の話

軍事工場などが近かったろう学校には、「その状況を口外すると警察につかまるぞ」とろう学校の先生から言われて戦後もずっと口外できないろう者がいると聞いている。

#### 角谷さん(奈良県)の話

私は戦後生まれです。奈良県に住んでいるが、大阪に近かったので大阪府生野ろう学校出身です。

大阪の環状線にまつわる戦争体験などを話したい。大阪の環状線は今、環状となっているが、昔は大阪駅から天王寺駅までしかなかった。昭和30年初め頃、私がまだ小さかった頃、ある用事で母に連れられて大阪駅へ行ったことがあった。森ノ宮駅、京橋駅辺りに

戦争の残骸が見えた。終戦後十数年たっても、まだそのままだった。大阪城周辺に軍事工場がまだ残り、戦時中にいところがそこで働いていた。

大阪城の近くに大阪市立ろう学校がある。軍事工場に近かったので、その様子を見たらろう年輩が多かった。捕虜となった米軍が手錠をかけられて歩いていた。憲兵が「さっさと歩け」というかのように棒を叩きながら怒鳴っていたのを見て恐ろしかったという話を聞いた。又、戦時中は鶴橋駅から大阪駅までの間は、電車の窓のカーテンが閉められた状態で通っていく。その辺りの軍事工場が秘密にされていたのです。

又、奈良県のろう年輩の話ですが、戦時中、彼は二十歳だった。彼はろう者で兵隊は行けず、商売をしていた母と一緒に下関へ電車に行った。電車の中には女性や老人、子供ばかりだった。彼だけが若い男性だったので、憲兵から疑われ、母が「この子はろう者です」と説明してくれたお陰で助かったそうだ。彼は戦時中、成年だったので、どこに行っても憲兵に疑われ苦労したとのこと。

### 千々岩からの報告

沖縄はもともと琉球語を持っている。若い人は戦時中、学校で日本語を教育されていたので問題なかったが、年輩たちは琉球語しか話せなかった。戦時中、琉球語を話した事でスパイ視され、殺されたケースが多かった。ろう者の男性の場合は他の身障者同様、軍人にはなれないが、外見上では分からないので戦前は勤労奉仕先など憲兵などで睨まれ苦労する。戦争中は家族で避難し、米軍と遭遇した時も米軍から民間人を装った日本軍ではないかと疑われて怖い思いをした人が多くいた。

### 伊藤政雄の話

私自身も昭和20年3月10日の東京大空襲を経験している。私は東京の下町に住んでいて、父は商人だった。東京大空襲はかなりひどくて私の家あたり一面焼かれ、それぞれの家族の誰かに死んでいた。私は家も全焼したが家族全員無事だった。祖父は大正12年9月1日の関東大震災の時も家に焼かれた。その時人々は浅草の公会堂へ駆け込んだが、火事で大勢の人が死んだ事件があって他の人たちは怖がってその場所へ避難しなかったが、祖父は「同じ所に災いが来る訳がない」と家族全員を公会堂へ避難させたお陰だった。今に思えば本当に幸運であった。

全焼した私たちは母の故郷の茨城へ移った。ある日、茨城の畑で遊んでいる時、米軍のグラマンF6F機が現れてきた。茫然と見ていると銃口が光って見えた。グラマン機が自分に目掛けて来ていると気が付いて慌てた。ちょうど近くに大きな木があったので、その影に隠れた。グラマン機に操縦している米軍の目に合いながら去って行った。その大きな木が私を助けてくれたのだった。今でも忘れられない怖い経験だった。

昭和20年3月10日の東京大空襲前の冬に私はろう学校の学徒疎開をした。疎開先での食事は少なくてつらかった。正月前の12月31日に家に帰った。久しぶりに両親と会い、食事もおいしくて、冬休みが終わっても東京にいた。1月26日の朝、新聞で見たい映画が上映されていることを知り、早速見に行った。映画館は私と聴者一人しかいなかった

た。映画もなかなか始まらない。聴者もいつの間にかいなくなった。私は受付に行くとう受付の人から「空襲警報が出ているため、今日の上映は中止だ」と言われた。仕方なく、私は銀座でぶらついた。このままぶらつこうか、迷ったが、帰る事にして有楽町駅から秋葉原駅まで電車に乗った。確かに午前11時すぎだった。電車は混んでいた。そして秋葉原駅で乗り換えて別の電車に乗り、私は座れた。

突然回りの人たちが立ち上げたので私は驚いて窓の外を見ると、向こうの街が燃えていた。どこで燃えているのかが分からず、冷や汗だった。電車が止まったので、私は降りて早足で歩いて帰った。燃えている所が自分の所ではなかったのが安心した。自宅に着いてすぐ、屋根に登って燃えている所を確認すると、さっき映画を見ていた辺りではないか。他にも家から比較的に近い所にも燃えていた。親が止めるのを聞かずに自車で現場に行ってみた。道に誰一人もいなかった。ここに来るまでの間、誰が「危ないから帰れ！」と言っていた人がいたかも知れないが、こういう時、ろう者は便利である。聞こえないからものごとに集中できる。

現場に着くと消防士が一生懸命に水をかけていた。野次馬は私一人だけだった。翌日私は又映画館へ行ったが、電車は途中までしか行けず、昨日行った映画館辺りの建物が破壊され、人々がその処理をしているのを見た。そしてあの映画館が気になって見に行ったら、そこには全焼し、無残な姿をしていた。私は昨日待ち続けていたら…と思うとぞっとした。私にとって最初の戦争経験だった。その時の状況は今でも鮮明に思い浮かぶ、忘れられない日だった。

私たちろう者は、戦時中はなかなか情報が入らないが、目で見るものが全てだった。だから私は新聞を読む事を怠らなかったし、出来るだけ自分の眼で確かめたりした。米軍からの空中ビラを拾った時もそうだった。聴者はビラを読まずに警察へ届け出るが、自分は隠して読んだりした。ありのままの現状を見てきた私にとっては新聞などの記事に疑問を持ったりする事が出来たと思う。

## 「ろう者と戦争」記録方法 伊藤政雄

自分の地元でろう年輩の戦争体験を取材したり、話を聞いた人は多くいると思う。しかし、それを文書化するのはとても大変だ。自分で文書化したりすることが出来るのなら、それでも良いが、難しいのなら手話通訳者とか手話サークルの聴者に手伝ってもらふ事も大切だ。ビデオカメラで撮影する方法もあるし聴者と一緒に取材し、聴者が読み取ってテープレコーダーに記録する方法など色々な方法がある。

現場調査(フィールドワーク)がとても重要だ。資料を読むだけでなく、事前学習を充分に行なってから現場で調査して整理することが大切だ。また、費用もかかる。自払いする方法もあるが、いろいろな団体から援助をお願いする方法なども考えてみると良いだろう。

時間もお金もかかる。すごく大変な仕事だが、皆さんの熱意が勝負です。最後まで熱意を持ちつづけて欲しいと思う。ろう者の歴史的な記録を守って行く為に、皆さんのご協力が必要です。頑張りましょう！！

(記録：千々岩恵子)